

## 2. 戦略の視座

エネルギーは経済と国民生活のインフラであり、経済的で安定していることが求められる。特に我が国の場合、エネルギー自給率は低く、供給途絶のリスクが高い。このため、エネルギー戦略を構築する上での最優先の課題は、常に、エネルギーセキュリティの確保であった。特に 73 年の第一次石油危機以降、より供給が安定的な資源の確保に傾注し、電源構成を多様化すると同時に、省エネルギーを進め資源の対外依存の低下に取り組んできた。

90 年代以降は、地球温暖化問題を背景に、これに環境への適合という新たな目標が加わった。エネルギー戦略は、経済効率性の追求、エネルギーセキュリティの確保、環境への適合という 3 つの要請に応えることが求められるようになった。

今般の東日本大震災と福島原子力発電所の事故は、この 3 つの要請に加えて、安全・安心の確保の重要性を再認識させた。経済性とエネルギーセキュリティの確保というかねてからの要請に加え、環境への適合を図り、かつ、安全なエネルギー構造を築くことが、革新的エネルギー・環境戦略の目標となる。<sup>1</sup>

「効率性」を確保しながら、「安全」で「環境」に優しく、「エネルギーセキュリティ」も確保できるエネルギー構造を築くことは容易なことではない。このことは、我が国のみならず、世界各国の共通の課題である。<sup>2</sup>

どのエネルギー源が経済性に優れ、安全保障上の観点から秀でているのか。化石燃料への依存度低減は、我が国にとって普遍的な重要課題である中で、原発への依存度を低減しながら、エネルギーセキュリティや環境への適合をいかに確保するのか。将来の技術革新の可能性を加味すれば、この経済性や安全保障上の評価がどう変わるのか。あるいは国の意思として、これをどう変えていくのか。経済性や安全性のコストの壁を打ち破る鍵はエネルギーイノベーションにある。国際的な位置づけを踏まえて、このエネルギーイノベーションのどの分野に日本は傾注すべきなのか。地球温暖化問題にどのように取り組むべきなのか。

---

<sup>1</sup> 参考資料①：我が国のこれまでのエネルギー戦略を参照。(p. 26)

<sup>2</sup> 参考資料②：エネルギー政策の各国比較を参照。(p. 27)

こうした諸点に関する検討を経て、我が国は、新たな技術体系に裏打ちされたエネルギーベストミックスとエネルギーシステムを目指さなければならない。このためには国民的な議論も必要となる。

そこでまず、革新的エネルギー・環境戦略を今後具体化するに当たり、共有すべき理念を提示する。目指すべきエネルギーベストミックス、目指すべきエネルギーシステム、国民合意の形成の3つからなる。